

情報公開文書

研究の名称	回復期リハビリテーション病棟における転倒と機能的自立度評価法の関係
整理番号	No. 92
研究機関の名称	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
研究責任者 (所属・氏名)	堀川英世 (リハビリテーション科)
研究の概要	<p>【研究対象者】 2017年4月から2022年3月までに当施設回復期リハビリテーション病棟に入院・入棟した全患者を対象とします。</p> <p>【研究の目的・意義】 機能的自立度評価法 (Functional Independence Measure: FIM) は人の動作を細かく評価し、適切な治療や訓練につながるように考えられたADL評価法です。回復期リハビリテーション病棟に入院・入棟した患者は地域高齢者や急性期病院よりも転倒発生率は高いことが知られています。回復期リハビリテーション病棟での転倒による外傷の発生率は低いですが、外傷の重症度によっては入院期間延長にもつながります。入院した患者のFIMの推移と転倒や転倒による外傷の発生との関係を調査することにより、入院期間中の転倒を予測できるリスクを同定し、転倒の予防につなげることを目的としています。</p> <p>【研究の方法】 後ろ向き観察研究 当施設の電子カルテの診療録とインシデントレポートから、年齢、性別、回復期リハビリテーションの対象疾患、転倒場所、転倒時点の主たる移動方法、入院期間中の転倒の有無、転倒による外傷の発生の有無と経過、入院中のFIMの推移を調査します。</p> <p>【研究期間】 2023年2月28日 ～ 2024年3月31日 【研究結果の公表の方法】 学会または医学雑誌での発表</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	試料はありません。研究に用いる情報は電子カルテとインシデントレポートから抽出します。富山大学リハビリテーション科との共同研究となるため、同施設への情報提供を行います。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション科 堀川英世
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者 (研究主機関における研究責任者氏名)	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション科 堀川英世
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外 (試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む) を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076 - 438 - 2233 E-mail ricacoco@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 リハビリテーション科 堀川 英世</p>